

序

おそらく多くの医師が研修医時代の救急当直で最初に骨折・脱臼・捻挫の患者の診療をすることになるのではないのでしょうか？その場合の指導体制について厚生労働省は、電話等により指導医または上級医に相談できる体制が確保されていることを求めています。しかし、実際には、救急患者が来ると最初に研修医に連絡が来るので、問診や所見をとり、検査などの指示を出してから、指導医または上級医に相談することになるでしょう。従って、相談するより前に骨折・脱臼・捻挫についての基礎知識あるいは基本手技を簡潔に頭に入れておかないといけないということになります。

一方、整形外科専攻医研修マニュアルには12の一般教育目標のなかに「運動器救急疾患・外傷に対応できる基本的診療能力を修得する」と記載されています。さらに外傷（救急医療）の行動目標の1つには「骨折・脱臼を列挙して、その臨床像と治療方針を述べることができる」と記載されていて、すべての整形外科的外傷は最低5例以上経験すべき疾患として位置づけられています。

「カラー写真でみる！骨折・脱臼・捻挫」は整形外科的外傷の初期治療に携わる初学者のためにカラー写真とイラストを多用し、現場ですぐに参照できる実用書として2005年に初版が発行されました。2010年に出版された改訂版も大変ご好評をいただいておりますが、改訂版発行からおよそ10年が経過したため、このたび、現在の実臨床に合わせて項目や内容をアップデートし、新たなスタンダードとなる書籍をめざしてリニューアル致しました。

本書は研修医・専攻医が経験するであろう骨折・脱臼・捻挫の基礎知識および保存療法を中心とした基本手技を、可能な限り写真・図表・動画などを豊富に用いたビジュアルな紙面をめざし、初学者に理解しやすいように解説致しました。陥りやすい失敗・勘違いしやすい点を注意喚起するPitfallや、用語解説・追加情報などを記したMemoを適宜配置し、理解を深めるように工夫致しました。また、X線写真などには矢印等を用いて当該所見をわかりやすく示すとともに、一部の手技などはWeb動画をとり入れわかりやすく解説致しました。本書の執筆者はすべて実際の外傷現場で診療している整形外科医であるため、最新の生きた情報が記されています。研修医・専攻医だけでなく、理学療法士や看護師、救命救急士の皆さんにもお役立ていただける書籍であると自負しております。

最後に、本書の改訂にあたり、羊土社編集部の皆様の情熱と労力に心から感謝申し上げます。

2020年9月

須藤啓広